

10月21日に公開講演会

一般の方々に研究成果を知っていただくため、森林総合研究所は10月21日(水)午後1時から、東京都千代田区一ツ橋2丁目の一橋講堂で公開講演会を開きます。本年度は「森林と多様な生き物たちのつながりとその保全」をテーマに講演やポスター発表を予定しています。参加は事前申込み制で無料です。

森林は多様な生活環境を生き物に提供し、生物多様性を支えています。一方、多様な生物種が存在することによって森林の機能が保たれ、その安定性が高まる側面もあります。本公開講演会では、まず枯死木が支えるきのこや昆虫の話題と、里山に暮らすアリの話題を紹介し、次に海鳥が陸地にもたらす養分の話題を紹介します。また、生物多様性の保全に向けた取り組みとして、海洋島における種分化とその遺伝的保全の話題と、人工林における保持林業の話題を提供します。

最新情報は公式サイトでご確認ください(2次元コード参照)。



●日時
2026年10月21日(水)午後1時〜4時15分(午後0時半から受

付)

●会場

一橋大学一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合セン
ター内)

【講演】

・イントロダクション

八木橋 勉(研究ディレクター)

・枯死木が支えるきのこや昆虫の多様性

山下 聡(生物多様性・気候変動研究拠点 生物多様性研究室長)

・里山のドングリに住む、風変わりなアリの話

濱口 京子(関西支所 生物多様性研究グループ長)

・海鳥、ほんとは、森の鳥、今日も、自然を、育てる

川上和人(北海道支所 地域研究監)

・小笠原の樹木が語る進化、新種の発見から遺伝的多様性の保全へ

鈴木 節子(樹木分子遺伝研究領域 生態遺伝研究室長)

・人工林で木材を生産しながら生き物を守る―保持林業―

山浦 悠一(森林植生研究領域 景觀生態研究担当チーム長)

【ポスター発表】

・最近の研究成果から紹介

【「森の国・木の街」づくり宣言に賛同

国内の森林資源を生かした持

続可能な社会の実現に向け、農林水産省が企業・団体や自治体に参画を呼びかけている「森の国・木の街」づくり宣言に国立研究開発法人森林研究・整備機構も賛同し、「森林の整備に繋がる木材の活用を通じて地球温暖化の防止に貢献するとともに、木とともに生きる地域の未来を育む「森の国・木の街」づくりに取り組み」ことを宣言しました。

「2026夏休み企画」

夏休みの小学生たちにクマを正しく知ってもらおうと、森林総合研究所は7月29日、一般公開企画「クマのあしあとをたどろう」を開催しました。保護者を含め約80人が来所し、中下留美子鳥獣生態研究室長による講演(写真)や紙芝居を視聴したり、



足型に思い思いに絵の具を塗ったり、毛皮や骨の複製に触ったりして、クマを学びました。参加者からは「本来の生態や生活を知り、うまくすみ分けることが大切なんだと思いました」「怖いイメージだけでしたが、その生態を知って、少し印象が変わりました」などの感想が寄せられました。

次号予告

12月発行の次号75号は、各地で一斉開花が確認されているタケ・ササについて特集する予定です。巻頭対談では、民俗学者の畑中草宏さんと関西支所森林生態研究グループの小林慧人研究員がタケ・ササにまつわる話題を幅広く語り合います。お楽しみに。



『実用化カタログ』掲載の成果紹介

森林総合研究所の研究開発成果を活用していただくことを目指して、成果の概要をまとめた『森林産業実用化カタログ2025』を公式サイトで公開中です。ここに掲載されている81の成果のうち、「森林の多面的機能の発揮」に関連する成果は01〜12です。詳しくは公式サイト(2次元コード参照)をご覧ください。



P.16



P.16



P.3,8



P.3,8,14,16,20



P.3,8,14,16,18,20



P.3,8,20

◀持続可能な開発目標(SDGs)

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。



森林総合研究所に関するトピックやイベント、研究成果など最新情報は公式サイトで案内しています▶▶▶



お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.go.jp